

24 LGWAN上で利用できる生成AIアプリを民間企業と共同開発し、本格運用【山口県山陽小野田市】

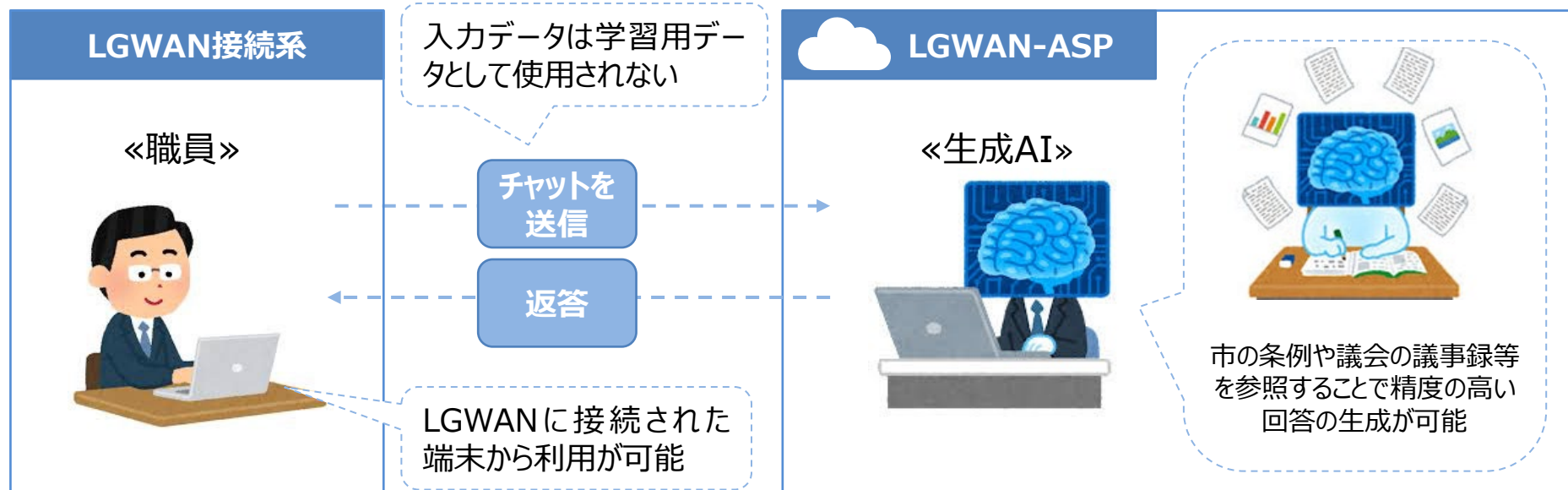


- 入力データが学習に利用されない仕様により、安全に配慮しつつ、業務効率化を推進
- 市独自の情報を生成AIに参照させることで、市の実情を踏まえた精度の高い回答を生成

事業の概要

- 行政専用ネットワーク（LGWAN）に接続された端末から利用できる生成AIアプリを民間企業と共同開発し、令和5年10月から同アプリを本格運用。
- 生成AIに入力した情報が、学習などにより外部で利用されない仕様としており、**安全な運用が可能**。
- 市の条例や議会の議事録等の**自治体独自の情報を生成AIに参照させることで、市の実情を踏まえた精度の高い回答を生成することができ**、答弁案や企画部門における事業概要の作成等、幅広い領域での文書生成に活用。

[サービスイメージ]



24 LGWAN上で利用できる生成AIアプリを民間企業と共同開発し、本格運用【山口県山陽小野田市】

事業効果



- 本格運用以降、多くの職員が利用しており、アンケートにおいても、87%の職員が業務の効率化につながると回答している。
- 生成AIを活用した業務の効率化により空いた時間を、市民とともにまちづくりに取り組む時間にあてることができる。

コスト

※主にシステム導入等
に係るコストを記載

イニシャルコスト ※税抜

（積算不可）

（内訳）

－円

（備考） 日本情報通信株式会社によるデジタル化支援の一環として取り組んでいる事業であるため、単体としての運用費は積算不可

ランニングコスト（1年あたり） ※税抜

（積算不可）

（内訳）

－円

（備考） 日本情報通信株式会社によるデジタル化支援の一環として取り組んでいる事業であるため、単体としての運用費は積算不可



スケジュール

検討開始から導入までの期間 7 か月

スケジュールの内訳

- R5.4～ 業務への生成AIの活用について事業者と連携
- R5.5 職員への生成AIに係るワークショップ開催
- R5.9 全職員を対象とした生成AI研修（初級）
- R5.10 NICMA本格運用
- R6.5 RAGの導入
- R6.10 GPT-4oの導入



サービス提供事業者等

サービス
提供事業者

日本情報通信株式会社

サービス名

自治体向け生成AI利用対話型アプリNICMA

運用形態

パッケージ製品をクラウド環境で利用

その他
参画主体

－



担当部署 山陽小野田市企画部デジタル推進課

電話 0836-82-1147

メール digital@city.sanyo-onoda.lg.jp

24 LGWAN上で利用できる生成AIアプリを民間企業と共同開発し、本格運用【山口県山陽小野田市】



(総務省)

取組の経緯・きっかけを教えてください。

本市では、デジタル技術による業務の効率化を図るため、生成AIの業務への活用を検討していました。検討を進める中で、令和3年から令和4年の2年間、国の地方創生人材支援制度を通じて本市にデジタル人材を派遣していただいた民間事業者から、本市と連携した**自治体業務に特化した生成AIアプリの共同開発の提案**があり、**令和5年10月からの本格的な運用開始**につながりました。



(山陽小野田市)

**工夫した点を教えてください。**

市のニーズを踏まえ、パッケージ製品にカスタマイズを行っています。生成AIに**議事録や例規集、広報をそれぞれ学習**させており、どの情報を参照するかカテゴリを選択した上でプロンプトへの入力を行うことができます。学習させるための操作は職員自身で行うことができ、**一般の生成AIよりも市の実情を踏まえた回答を生成することができます**。また、幹部職員の理解醸成に向けて、**庁議等の場を活用し、市長から幹部職員に対し、生成AIの利用を促しています**。

**取組の成果を教えてください。**

本格運用以降、多くの職員が利用しており、職員アンケートにおいても、**87%の職員が「業務の効率化につながると回答**しています。

対象職員500人のうち150人程度が毎月利用しており、生成AIを活用した業務の効率化により創出した時間を、市民とともにまちづくりに取り組む等の人間にしかできない業務に時間にあてることができています。

**近況や今後の展望を教えてください。**

業務の効率化にある程度の手ごたえは感じているところですが、庁内全体で生成AI等を活用し業務を効率化していかうとする意識を醸成できるよう、今後の生成AIの進化も頭に入れながら、更なる活用に取り組んでいきます。

現時点で具体的に検討ができている訳ではありませんが、将来的な活用方法としては、市民の方からの問い合わせに対して、生成AIが回答する仕組みを作ることができれば良いと考えています。



【参考情報】 山口県山陽小野田市：5.9万人（令和6年1月1日現在）

関連URL：山陽小野田市ホームページ（<https://www.city.sanyo-onoda.lg.jp/soshiki/86/gpt.html>）